

# 県内復興・経済日誌（2022年1月）

1日

## 《初日の出クルーズ復活》

いわき市の小名浜港で観光遊覧船を運航する小名浜ダイクルーズが、同港周辺の海上で「初日の出クルーズ」を行った。同港の遊覧船事業は、これまで別会社が運航していたが、事業継続が難しくなり2019年9月に廃業していた。同社が2021年4月に遊覧船事業を始め、恒例だった初日の出を眺めるクルーズを3年ぶりに復活させた。

5日

## 《須賀川市、税金納付用セルフレジ導入》

須賀川市は、市役所内で市税などを納付できるセルフレジの運用を始めた。同市によると、税金納付用セルフレジの導入は県内で初めてであり、市の発行した納付書をレジが自動で読み取り、納付者自身が現金を入金して納付する仕組みとなっている。市は、窓口での納付に比べて市民らの待ち時間を短縮できるほか、非対面のため新型コロナウイルス感染症などの拡大防止につながると見込んでいる。

7日

## 《県北特産「あんぼ柿」、UAE 初輸出へ》

冷凍した県北地方特産の「あんぼ柿」をアラブ首長国連邦（UAE）へ向け輸出するため、県などはアラビア語のシール貼付と箱詰めを行った。UAE への本格輸出は今回が初めてとなり、1月31日と2月1日に冷凍保存されたあんぼ柿約180kg（100ケース）が輸出される。

## 《中ノ沢温泉水、コロナ不活性化に効果》

猪苗代町の中ノ沢温泉(株)と群馬大学の板橋教授が、中ノ沢温泉の強酸性温泉水に新型コロナウイルスを不活性化させる効果があるとの実験結果を発表した。源泉管理などを行う同社の古川社長は「実験結果を広くアピールして誘客につなげたい」と期待を寄せた。

9日

## 《貴船神社「火伏せ祭り」、11年ぶり復活》

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故により開催が途絶えていた貴船神社（南相馬市）の「火伏せ祭り」が11年ぶりに復活した。避難指示区域だった小高区の居住者がいまだ震災前の3割ほどにとどまるなか、祭りを受け継ぐた

めに境内の行事のみ執り行った。

12日

## 《マルト、「お弁当・お惣菜大賞」最優秀賞受賞》

全国の小売店や専門店を対象にした商品コンテスト「お弁当・お惣菜大賞2022」の結果が発表され、マルト（いわき市）が出品した2商品が最高賞となる最優秀賞に輝いた。最優秀賞に輝いたのはパン部門と寿司部門の商品で、見た目や味に加え、地産地消や地域との連携、鮮度維持、素材の厳選などの点が高く評価された。

14日

## 《「ふくしま満天堂」グランプリ発表》

県産農林水産物を使った6次化商品ブランド「ふくしま満天堂」の商品表彰となる「ふくしま満天堂グランプリ2021」最終審査会と表彰式が福島市で行われ、カタノ（白河市）の「そばパスタ」がグランプリに輝いた。準グランプリには森山（福島市）の「湯庵プリン和」と福福堂（田村市）の「ふくしま黒米手延べ麺」が選ばれた。

20日

## 《双葉町で準備宿泊開始》

東京電力福島第一原発事故に伴い県内で唯一全町避難が続く双葉町で、本年6月の避難指示解除を目指し、帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域（復興拠点）での準備宿泊が始まった。事前申請していた11世帯15人のうち、初日は4世帯5人が利用登録した。

24日

## 《県産農産物輸出量、過去最多更新》

県の発表によると、2021年12月31日時点の県産農産物輸出量は約332tで、年度途中ながら前年度と比べて47.2t増え、統計が残る2005年度以降で過去最多を更新した。シンガポールと香港向けのコメの輸出量増加が全体を押し上げた。

27日

## 《2021年沿岸漁獲量、原発事故後最多》

福島県漁業協同組合連合会によると、2021年県内沿岸漁業の水揚げ量（速報値）は4,976tとなり、2020年の4,590tより8%増加し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故以降では最多となった。県内沿岸漁業は2021年3月末に試験操業を終え、本格操業に向けた移行期間に入っている。